

別荘を建てたH様の 館山移住コラムパート2

第3号に引き続き、H様の移住コラムをお届けいたします。今回はかなり重要なキーワードがチラホラと・・・

「館山のどこ？家は誰に造ってもらったの？」

「いつかは海辺の家で暮らす」（著）加藤 賢一、植村 誠 という本に出会いました。

この本は館山の隣町富浦に別荘をお持ちの加藤さんが長年の経験から、海に近いところに住む人のための心得、注意点を挙げ、植村さんが上手にまとめた本です。

今本が手元ないのでぼんやり覚えていた記憶の中からいくつかを思い出し下記に上げてみたいと思います。

海辺の家、丘の中腹の家、丘の頂上の家・・・それぞれ好みは分かれるところですが、塩害はどの家にも間違いなくやってくるのだそうです。

海に近いところに住むということは、風が強いところに住むということのようです。特に海辺では、一度風が吹くと細かい砂が潮と一緒に飛んできて家の外壁にこびりつくのだそうです。水で家の外壁を洗うと外壁にこびりついていた砂が砂の川となって流れて落ちるくらいだそうです。家を建てるならその土地、風土（風、塩、太陽光等）を良く知っている



だ、それじゃ「と」とで海辺の土地探し一本に絞って、そこから再スタートいたしました。しかし、なかなかサラリーマンの私の手の届く土地つ

てありませんでした。ほちほち館山に通い始めてからは3年。本を読んで海辺の土地だけ探す！と決めてからは1年半、紆余曲折ありながら5



3歳のとき今の土地が見つかりました。土地購入の手続き、登録が終わり、家を作る段になって購入した土地のお隣の方が相談に乗ってくれて、安くてきちんと作ってくれるというゼネコンをご紹介いただいたのですが、すでに私は本を読んで学習していたこともあり、館山の風土等全てを知っている地元の工務店にお願いしよう決めていました。ましてこれから家も私も年を重ねていく上で、もい

たり、穏やかな海で子供に泳ぎの練習を教えた。農業体験だってできますよ。色々な団体が、市内の子供達を対象にお米を収穫したり、メロンを作ったりする体験学習を行っています。ゆっくりに流れる時間の中で、ノビノビ育っていく子供の目はとても澄んだキレイな目をしていきます。ぜひ田舎で子育てをしたい！とお考えの皆様を我々お世話す。何でもわからないことがあればご相談ください。



館山市は、海山の自然がいっぱいです。春の日曜日には、公園や海岸で子供とのんびりキヤッチボールや砂遊び、夏の朝は、ちよつと早起きして山へカブトムシやクワガタを探りに行

自然がいっぱいの中で 子育てをしませんか？

談の電話をかけられ、レスポンスよろしくきちんと仕上げてくださるのも大変ありがたいと感じております。大手ゼネコンに設計、建築をお願いしせっかく馬が合っていた担当の方だったのに転勤、退職等で連絡がつかなくなり、あまり馬の合わない方が担当者としていらして、全然希望どおりに物事が進まない・・・なんてこともありませんか。支払いも近くなので、こちらからご自宅に伺ったり仕事の出先の帰りに寄ってくださって支払いを済ませたりと、家と施工を担当していただいた会社が近いというのは大変心強いもので安心できます。

館山での子育て

今回は、我々おせっ会のHPにアクセスいただき、おせっ会サポートメンバーになっていただいた市内古茂口在住のTさんに色々とお話しを頂きました。

山形生まれ埼玉育ちのTさんが、移住をお考えになったのは、約10年前にさかのぼります。当時都内でアパレル関係のお仕事をされていたTさんは、結婚を期に、千葉県柏市の賃貸マンションで暮らしていました。その当時「子供が生まれたら田舎で子育てがしたいなあ〜」とおぼろげに思っていたそうです。そして子供も生まれ、移住先を選ぶためネット等で色々情報を得ていたそうです。そこで移住先をインターンターンの企業説明会などで知った館山のほか、山口県、静岡県、四国地方などに絞っていたのですが、「趣味の釣りもできるし、都心からほんの2時間でこんないい環境がある!」と最終的に館山に決めたそうです。また、「主人は以前より漁業に大



変興味があり、「移住したら漁業をやってみてみたい」と思っていたそうです。現在はその夢を叶え、定置網の



れた当初は、館山駅から近い八幡地区に借家を借りて生活を始めたのですが、現在の家は、海へも車で10分くらいの、静かな田園の景色が広がる豊房・古茂口地区に家を買ひ、奥様と、小学生と4月から幼稚園に入園する2人のお子さんの4人で毎日楽しく生活しているそうです。

Tさんは漁業のほかにも、「EM菌」を使った農作物を作っているそうで、毎日夜中に漁業の仕事に向かい、漁を終えた後は、昼過ぎには畑へ向かう…という大変忙しい日を送っているそうですが、地元町内の活動にも積極的に参加されていて、地区の清掃などに汗を流したり、お祭りにも積極的に参加され、子供達と屋台を引っ張ったり、「近所の方々と楽しいお酒を交わしたり、館山での生活に今ではすっかり溶け込んでいるようです。

今回お話しを伺ったTさんから、貴重なご意見をいただきました。まず、館山は、自然もあり、学校では学ぶことのできない小さいときに学んで欲しい知識が、自然と得ることのできる環境がある程度整っており、子育てにとても適した環境だということ。しかし、医療、特に小児科の救急体制が不十分のような気がする。

仕事についていること、長年の夢を実現できると素晴らしいですね。

大きなスーパーやホームセンターなどがあり、買い物をするには不自由はないが、逆に地元の商店街などの商店とのふれあいがなかなかできない。もっと活気のある商店街を期待し、今後シャッター通りにならないような工夫が欲しい。いざ移住してみたら何をしようかな…?と迷わないように、ある程度の「目的」を持って移住をされたほうが住んでからの生活に迷わない。などの意見やアドバイスを頂きました。

館山へ移住促進

キャンペーンを開催しました

3月30日(日)に「館山に住みませんか」と称した移住をPRするイベントをアクアラインの海ほたるサービスエリアと、館山市の南房パラダイスの2箇所で開催しました。



事前の会議では、移住担当小倉君による「おせっ会紹介パンフレット」作成打ち合わせや、看板製作の打ち合わせ、当日の細

かい段取り等を青年部員でおせっ会メンバーの「珈琲の店サルビア」にて行い当日に備えました。あいにく、30日は朝から小雨…雨男は誰だ?海ほたる班、南パラ班に分かれ、



それぞれの会場にて特設ブースを設置し、館山の観光パンフレットや我々おせっ会の活動内容の案内等をテーブルに並べ、大きな



声で「館山へ住んでみませんか?」とPRしました。今回のキャンペーンの最大目的は、館山に我々のような市民団体が存在するんだというPRと、6月8日に開催予定の館山移住体感ツアーをPRすること、移住をご検討されている方へアンケートを書いていただくことの3点でした。私は海ほたる班で活動を行いました。さすがに大きなサービスエリア、9時の開始から周りは人!人!のごった返しでした。そんな中せつせと館山をPR!新しくできた観光パンフレット「館山図鑑」の人气が高く、また意外にもおせっ会のパンフや、この移住かわら版も人気があり、部数が無くなってしまった為、海ほたるの事務所まで追加コピーをするほどでした。立ち寄った方の中には「今館山からの帰りなんです」という観

光帰りの方や、「移住で今館山に転入手続き中!」なんて方もいらっしやいました。このかわら版や、おせっ会パンフを見て、HPにアクセスして頂い

たり、問い合わせが来ることを期待しています。詳しい内容はHPのブログにてご覧下さい。HPは館山へ移住で検索!または<http://www.tateyamahelju.com/>